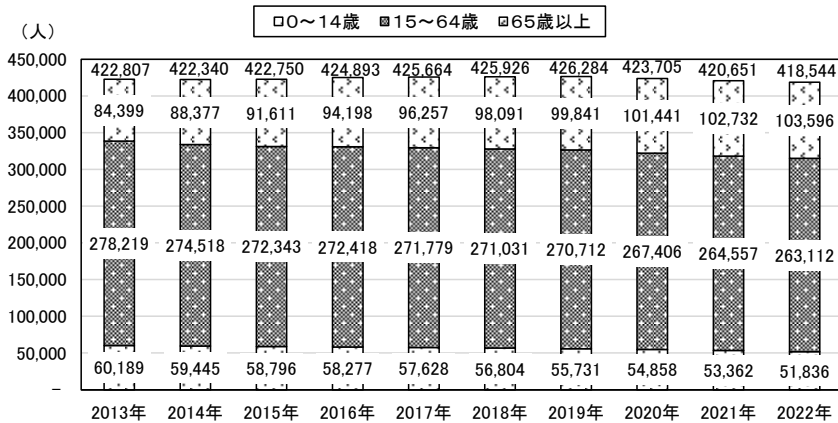


## ■現状分析

### 【総人口】

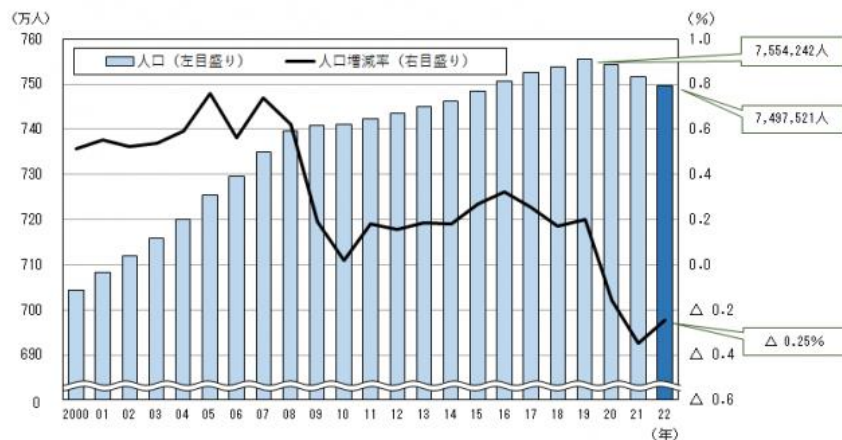
- ・本市は、**2019年から人口減少**に転じている。
- ・高齢化率は、上昇を続けており、2022年に24.8%。
- ・**愛知県全体も、2019年から人口が減少**しているほか、**県内の多くの自治体においても、2020年前後を境に減少**している。（例：豊橋市・岡崎市・安城市など）

### 本市の総人口の推移



【出典】住民基本台帳（各年8月1日時点）

### 愛知県の総人口の推移

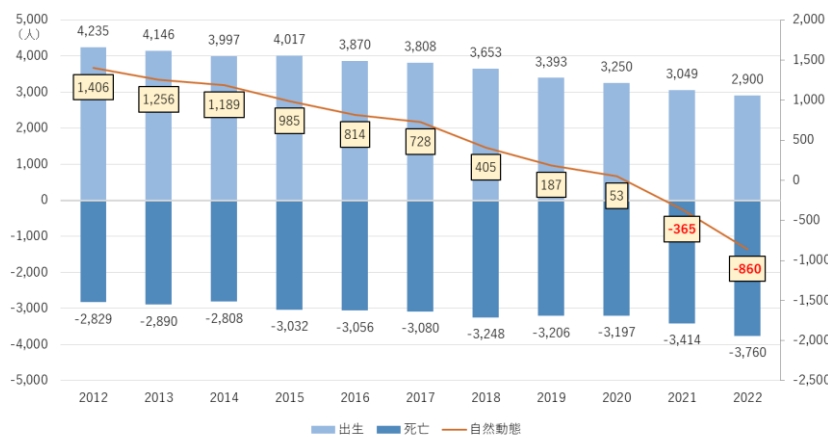


【出典】愛知県ホームページ（各年10月1日時点）

### 【自然動態】

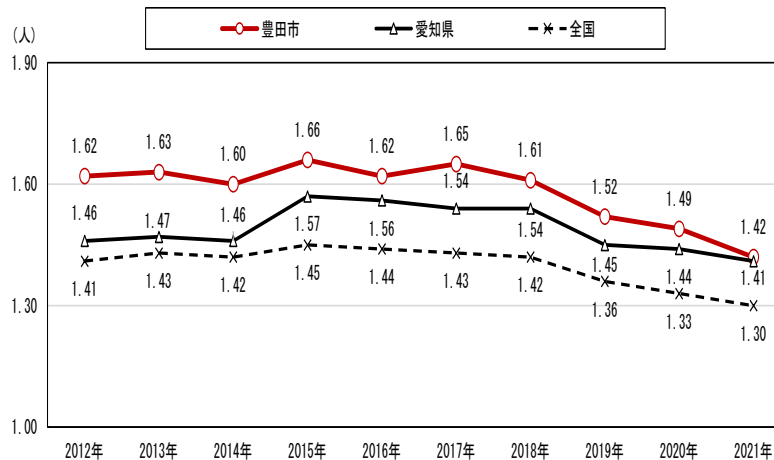
- ・本市は、**2021年から自然減**（出生よりも死亡が多い）となっている。
- ・本市の合計特殊出生率は、国県よりも高水準で推移してきたが、2021年には**県とほぼ同水準**となっている。
- ・年齢構成の推移から、**今後も自然減が拡大**していくと考えられる。

### 本市の自然動態の推移



【出典】住民基本台帳（各年1～12月の合計値）

### 合計特殊出生率の推移

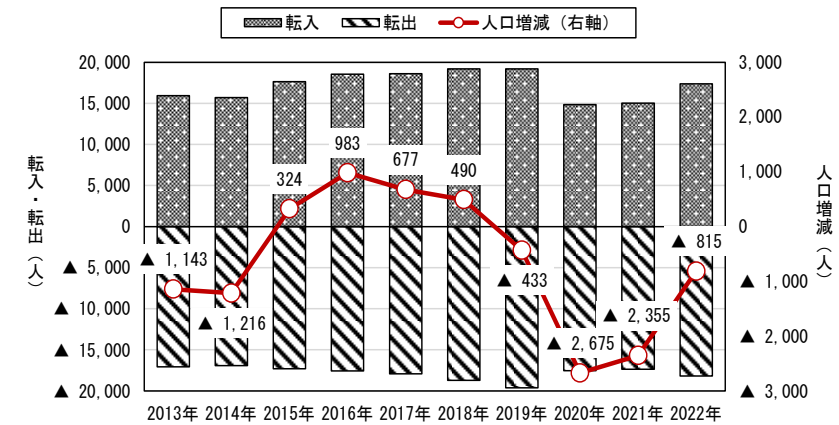


【出典】豊田市保健部総務課（各年10月1日時点）

### 【社会動態】

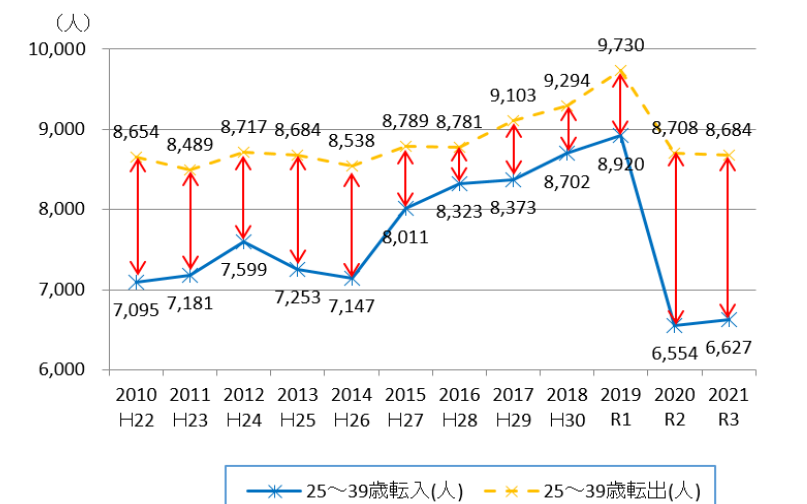
- ・2020・2021年は、コロナ禍を契機に**転入者が大幅に減少**となった。そのため、転出者数は横ばいであるものの、社会減が顕著となった。
- ・25～39歳の家族形成期について、**一定の転出抑制は図られている**。
- ・本市の社会動態は、**社会経済環境の影響を受けやすく、見通しにくい**。

### 本市の社会動態の推移



【出典】豊田市統計書（各年1～12月の合計値）

### 25～39歳の転出入の状況

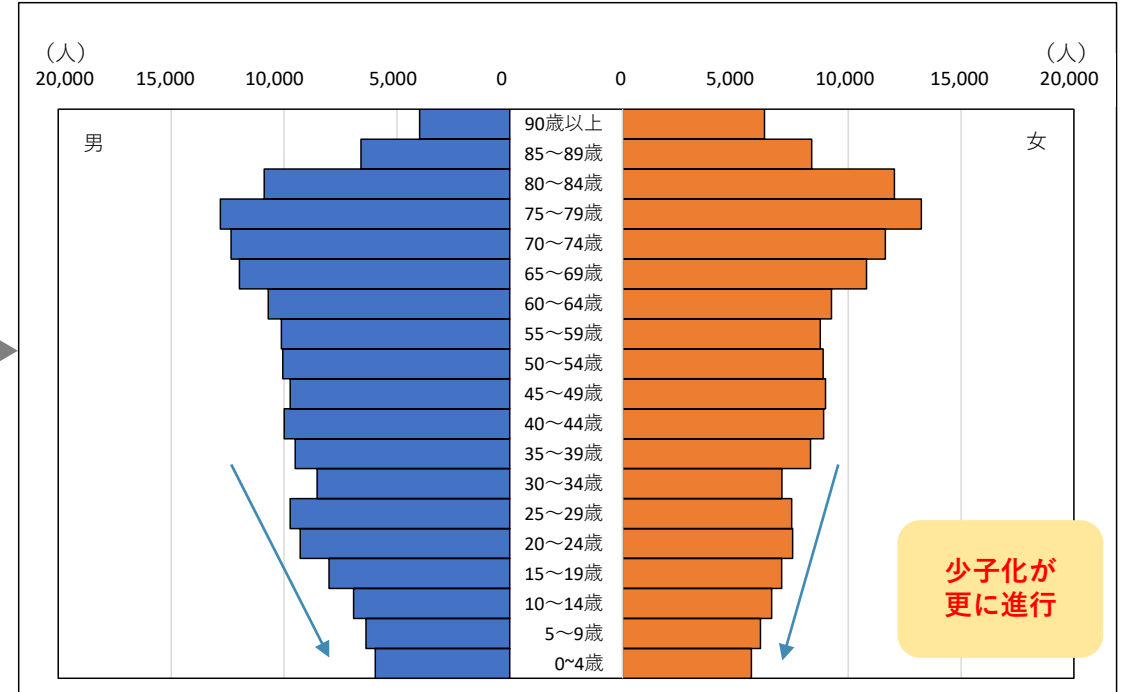
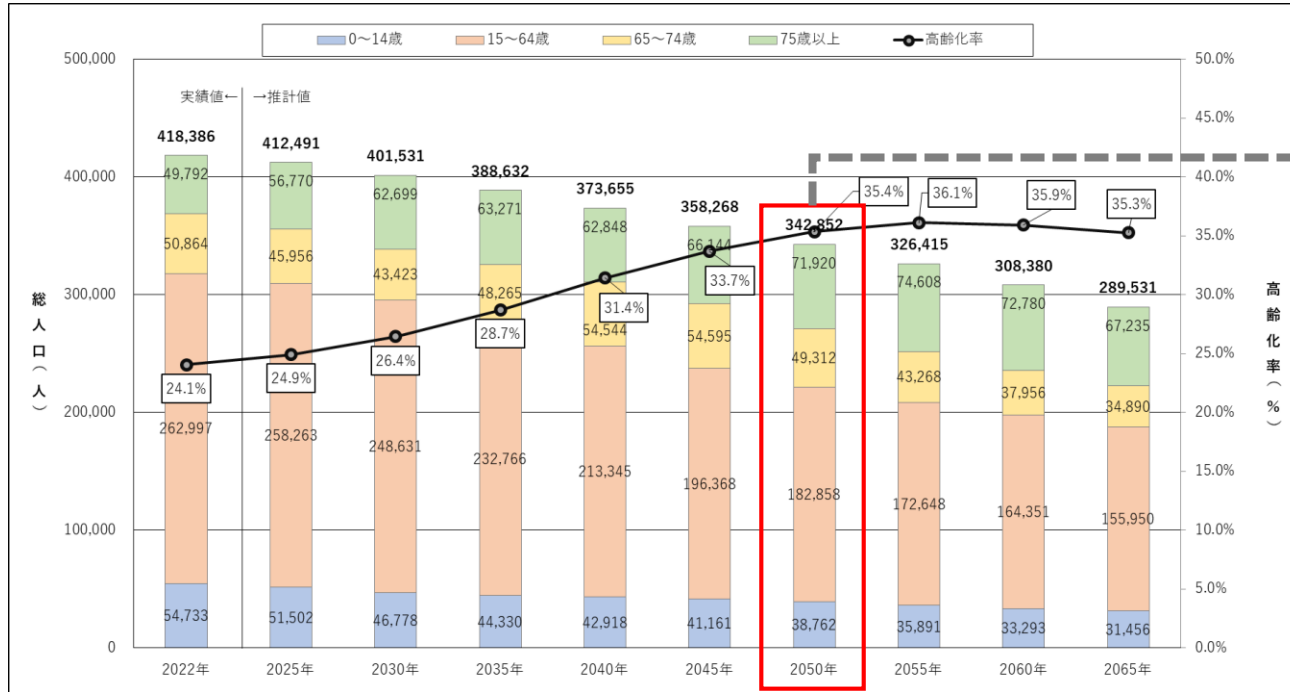


【出典】住民基本台帳（各年1～12月の合計値）

【シナリオ①】

現状の傾向が続いたと仮定した場合

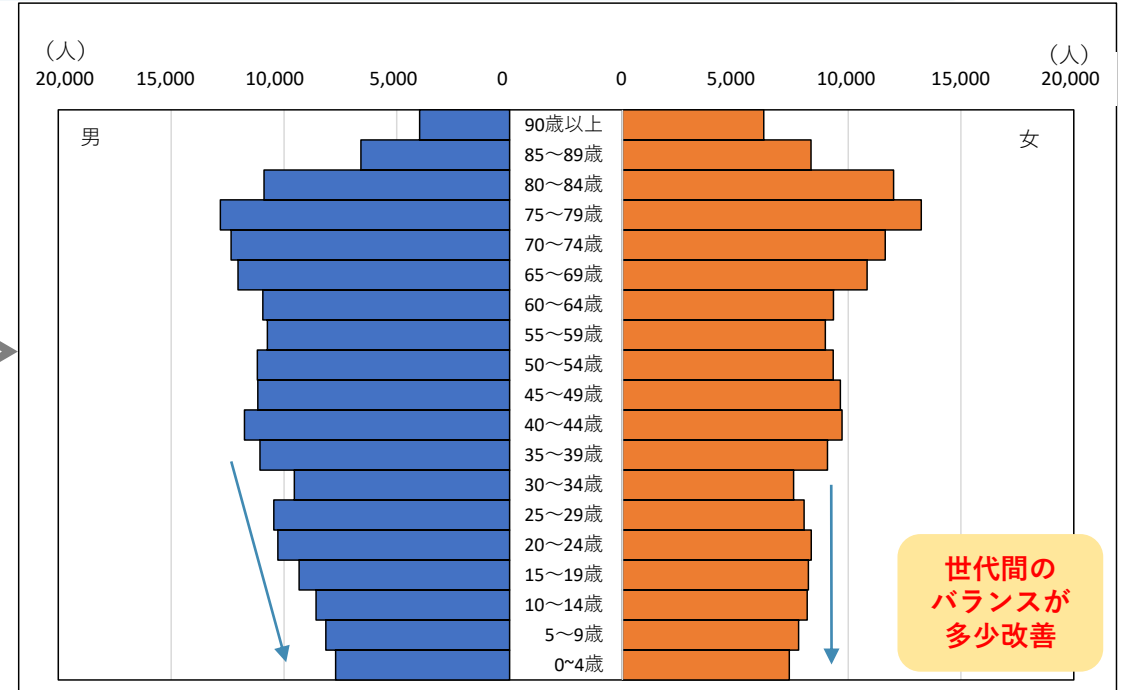
<自然動態> 2020年の水準（合計特殊出生率1.49）が続くと仮定  
 <社会動態> 2017年⇒2022年の人の動き方が続くと仮定



【シナリオ②】

出生率及び転出超過の改善を仮定した場合

<自然動態> 合計特殊出生率が、20年間かけて段階的に上昇し、**国が算出した希望出生率1.8**まで改善され、以後継続すると仮定  
 <社会動態> 家族形成期（25～39歳）について、20年間かけて段階的に**転出超過が半数**（概ね△1,200人→△600人）に改善され、以後継続すると仮定



人口動向のポイント

- ・今後、高齢者人口の増加に伴う死亡数の増加と、出生数の減少により**自然減が拡大**していく。
- ・産業構造や、働き方の変化が想定され、**就職を機会とした大幅な転入増は期待しにくい**。
- ・仮に合計特殊出生率・社会動態の改善が図られたとしても、**総人口の増にはならない**。
- ・**愛知県内の他の自治体も概ね人口減少**となっている。